入所者の食事形態の変化

経口摂取維持への取り組み

施設名：介護老人保健施設シルバーピアしきな
発　表　者： 大 城 祥 子（管理栄養士）
共同研究者： 玉那覇 綾乃（言語聴覚士）

【はじめに】

平成２０年９月の当施設入所者は９５名で、食事摂取状況は経口摂取者７９名、経管栄養者１６名となっています。経口摂取者の食事形態は、常食・キザミ食・超キザミ食・ミキサー食・ｴﾝｼﾞｮｲｾﾞﾘｰ食に分かれます。入所者の摂食・嚥下機能の低下に伴い、食事形態状況の割合は年々変化しています。過去５年間の９月期の食事形態状況を表にあらわしてみました。（次頁参照）平成２０年９月の入所者の食事摂取状況は経口摂取８3%、経管栄養食１7%となっています。形態別には、常食２１％、キザミ食１８％、超キザミ食１９％、ミキサー食１７％、ｴﾝｼﾞｮｲｾﾞﾘｰ食８％となっています。常食で摂取している方の割合は５年前と現在（平成２０年９月）を比較すると、３４％から現在は２１％に減っています。それに対し、重度の嚥下障害がみられるｴﾝｼﾞｮｲｾﾞﾘｰ食と経管栄養食の割合は０％から２５％に増えています。その他、体重減少等があり食事量を摂れない方の栄養補助食品を併用している方が約１割となっています。このような入所者の食事摂取状況の変化に対応するため、食事内容を変更してきましたので本日ここに報告致します。

【　経　過　】

【平成１８年４月】　超キザミ食の食材をミキサー食と同様に常食とは別の噛み砕きやすくのみ込みやすさに配慮した食材に変更しトロミを付加しました（例としてあげれば昆布やごぼうなど繊維が多い食材にはその料理の味付けにあう噛み砕きやすい食材に代替する）更にトロミでまとめることでバラつきがなく摂取しやすくなった様です。

【平成１８年１０月】　主食・副食の全量摂取が困難で体重減少等がある方へは、栄養補助食品の併用を導入しました。併用食にしたところでは、ｴﾈﾙｷﾞｰ量を多く摂ることができ体重アップへつながり、ＢＭＩ値の改善がみられました。対象者は主に　①元々、少食の方　②食事に時間が掛かりすぎる方　③認知症との関連で食に対する意欲や楽しみが薄れている方が食事摂取量を影響していたように思えます。

【平成１９年１月】　経口摂取可能なミキサー食の方で嚥下障害が更に低下している方へ、ｴﾝｼﾞｮｲｾﾞﾘｰ食を導入しました。評価は①ミキサー食でもムセがある場合②口に残留物が多い場合③熱が続き誤嚥の疑いがある方に、医師の診察や ST の評価を積極的に行い連携して食形態の変更を迅速に対応しました。ｴﾝｼﾞｮｲｾﾞﾘｰ食は一日４食 1,200ｋcal とし約１週間継続し状態を確認しました。１ヶ月目でミキサー食を１品追加して状態観察を行う方もいますが完全ミキサー食へ戻った方は残念ながら今のところおりません。しかし経口摂取は持続しております。

【平成１９年１０月】　調理時のトロミ付けに片栗粉を使用していましたが、粘度の安定性を図るためトロミ剤の使用に変更しました。同時期にゼリー剤（ゼラチンではない）を使用してのミキサー食の固形化（＝ゼリー食と称する）を提供しました。片栗粉を使用してとろみをつけた場合は、摂取中に唾液が混ざることで液状化し時折ムセがありましたが、トロミ剤に変更することで粘度が安定し、更にムセを軽減する

ことができました。

【考　察】

今回「食形態の変化と取り組み」について過去を振り返りながらまとめましたが、少なからず「経口摂取の維持」にむけて対応している様に感じております。機能の低下は避けられない場合もありますが栄養補助食品を使用したり個々人の残存機能を活かしながら安全性の高い食事提供を行う事により経口摂取を維持し経管栄養食への移行を遅らせることは可能だと思えます。

【まとめ】

今後の課題は、キザミ食の提供にあたっての食材料の選択やキザミサイズを食材料毎の見直ししたり、ミキサー食の固形化（＝ゼリー食等）があります。入所者の健康状態は加齢と共に変化しており、その状態に応じた食事内容も変化するケアが求められております。その為には入所者個々人の嚥下機能や摂食状況等を把握することが必要であります。口から食べる事が難しくなった場合に少しでも経口摂取が維持できるように、医師の診察やＳＴの評価、看護・介護等からの情報収集を得るチームケアの重要性を認識しております。特に当施設では半数程度の入所者が経口維持加算（Ⅱ）の対象に挙がっている為、管理栄養士としての役割の重さも常々感じつつ、多職種の連携がなければ、食事への対応はできないと感じています。今後も入所者の状態変化に敏感になりながら、嚥下機能からの食事変更だけではなく「認知症と食への関連性」や「白内障や認知度の影響による視覚と食との結び付き」など、高齢者の特質の知識を高め、よりよい食事提供に繁栄し、多くの入所者ができるだけ長く経口摂取で食事がとれる様に取り組んでいきたいと思います。

	毎年度9月期の食事形態状況							
年	(人) (%)		常食	キザミ食	超キザミ食	ミキサー食	ｴﾝｼﾞｮｲｾﾞﾘｰ食	経管栄養食
H16	人数	92	31	26	21	14	0	0
	割合	100	34%	28%	23%	15%	0%	0%
H17	人数	93	25	23	23	16	0	6
	割合	100	27%	25%	25%	17%	0%	6%
H18	人数	95	15	29	24	15	0	14
	割合	100	15%	30%	25%	16%	0%	14%
H19	人数	95	17	26	24	14	2	12
	割合	100	18%	27%	25%	15%	2%	13%
H20	人数	95	20	17	18	16	8	16
	割合	100	21%	18%	19%	17%	8%	17%